



玉加山
巻
九

15
1386
10



寺殿有今様合事撰定堪能輩卅人十五箇夜間每夜一番被決雌雄師長資賢寺卿為判者十三日仙洞今様合之次有御遊上皇令歌今様給希代之美談也。

春日社みぐりを廻廊ふ造りつゝありし事

同書小治兼二年五月廿日春日社今度修造之時改瑞垣可造廻廊之由衆徒進奏狀依申請被宣下畢而社家依有申旨被行御卜之處官奏共不快之由申之而衆徒申云不可依卜吉凶仍被問諸卿猶祈請本社可有覆推之由定申之遂改瑞垣造廻廊

と云ふり官奏其奏字ハ寮を誤るるべし官ハ社祇女寮を陰陽寮と云ふは統おぼしき思ふも云ふも其社乃つらりばふいふ人のハかゝるもきあふぞあゝと云ふも又侍ト其言ふも社の方をわきまふも其も云ふも其も云ふもほろしむるもきんまがつひ乃まうこゝハせんゝと云ふもさなりと云ふ

水無瀬殿造りつゝありし事

同書以建保五年正月十日上皇御移徒水無瀬殿新御所是本御所去年大風洪水之時顛倒流失之間更點他所被造嘗也十二日自水無瀬殿還御

大野の石佛

初瀬より伊弉諾名張へゆくわひぶふ大野寺といふべし
ゆく大きなる石佛のうゝを言ふなり。兼元三年三月七
日。上皇御幸長谷寺并宇多郡内大野石佛といふ事
此より後上皇ハ後鳥羽天皇也。

みやうゆ

武能といふ管結の上ま一の^{イナ}人乃作せふよまて。時光といふ
りの弟子にありふゆくまて。まやうぶあてくことあゆ
るまて。徳世建よりそくあり。みやうぶなる名世薄くうたてな
づきくつ物じ物より名付ともあてり。

しやうまて令といふ詞

古傳ふ人のまゆしやうまて。坊をゆえん。まてをいふに
どいつまて中言やちゆえせ給ふ。うせあまどいつい記録ぶ
ちどいれ令行給令立給をどあて。此よりまて乃令といふこ
とばいといふまてハんしづるまて。坊まて。上皇のま
あ。安思布麻之牟奈とつハんしづるまて。坊の集乃まての
ま。化まて。坊のまといふまて。

かこまね

かこまねまて。いふ詞。保元物語よりそくあり。

書出

かごとといふ系地の名

今川貞世が鹿苑院義隆大將軍の嚴嶋詣の記に此島の
傍の島居れどもりてかごとゆては船よりうらせ給ふとい
ひたり。

桃花源のゆゑとてはみづのゆゑ

應仁のみづとて一條兼良おとすは桃花源の文庫やきて
世系となすそのゆゑは盜賊とてふちこころとて七百餘
合はるなりとみづを引ちりし大政を及古とてなりし
ゆゑにばおやぐの竹林の序ゆかせ給ふりみづとてはみづ
とてはみづとてはみづとてはみづとてはみづとてはみづと
てはみづとてはみづとてはみづとてはみづとてはみづと

ぶふふふふとてはみづとてはみづとてはみづとてはみづと

玉津嶋の神

おのとしとせ紀のまゝにゆきてはみづとてはみづとてはみづと
てはみづとてはみづとてはみづとてはみづとてはみづと
人の見えたりはみづとてはみづとてはみづとてはみづと
人のみづとてはみづとてはみづとてはみづとてはみづと
玉津嶋を衣通ぬといふてはみづとてはみづとてはみづと
はみづとてはみづとてはみづとてはみづとてはみづと
ふ種日かきことといふはみづとてはみづとてはみづと
よりてのおいけてはみづとてはみづとてはみづと

后なるべし。其を、まが指津玉住命神社四座の中、亦四
座、神功皇后形、一説し、玉津嶋といひ、袖中抄、故、元京
亮被^ヒ中^ナ云、住吉神主國基云、住吉八本三社、亦、社、玉津嶋
明神、即、夜通姫、之、後、い、ち、ま、路、也、依、て、和、名、を、始、之、ま、ふ、と
い、な、り、か、く、住、命、神、玉、津、島、玉、基、の、説、也、亦、田、社、を、玉、津、嶋、明
神、と、い、つ、ハ、玉、津、嶋、神、功、皇、后、形、ゆ、え、也、此、傳、説、有、一、し、然、
れ、を、即、夜、通、姫、と、い、つ、ハ、昔、の、女、説、也、よ、り、し、得、ま、る、じ、と、て
又、玉、津、嶋、和、名、の、神、と、中、津、嶋、也、ま、た、ま、た、浦、の、神、と、い、ふ、こ
と、有、る、べ、し、其、地、名、を、若、と、い、へ、む、有、り、ま、た、又、住、吉、を、和、名、の、神
と、と、傳、説、も、亦、亦、の、社、神、功、皇、后、也、若、乃、浦、の、神、形、よ、り、と、出

し、ま、る、と、有、る、べ、し、ま、た、玉、津、嶋、も、津、を、隔、り、玉、出、嶋、有、り、古
書、亦、か、く、ま、る、と、い、つ、不、物、津、の、名、に、ま、り、有、り、玉、い、づ、嶋、と、よ、め
た、依、て、按、ず、此、地、を、神、功、皇、后、の、新、羅、を、伐、め、ぬ、如、意、珠
を、海、中、小、嶋、と、い、ふ、其、の、名、を、珠、乃、出、る、地、と、い、ふ、神、功、皇
后、の、紀、國、一、事、坐、ち、ま、り、日、本、紀、亦、見、え、て、由、り、か、く、そ、の、の
珠、を、始、め、る、地、と、い、ふ、此、皇、后、御、祭、れ、る、形、と、い、ふ、或、説、く、津、
島、住、吉、小、玉、出、嶋、有、り、神、功、皇、后、新、羅、を、伐、め、ぬ、干、珠、滿、珠
を、得、ぬ、也、ま、た、珠、の、出、る、所、と、い、つ、ハ、紀、玉、出、嶋、玉、出、嶋、の、名、を、
傳、説、し、傳、へ、る、形、と、い、ふ、紀、玉、出、嶋、神、を、後、り、住、吉、亦、亦、
ま、た、に、ま、り、て、ま、た、ま、た、玉、出、嶋、と、い、ふ、有、る、べ、し、新、羅、を、伐、
め、ぬ、

世をさす。九十九の王子と申す。一つは。信小徳也の一乃
も。居るといふ。は。十八町がほど。藤白の板をのりて。
ふ。ひ。ふ。ち。り。り。そのまゝ。西のうへ。所。芝。といふ。あ。る。
も。ひ。ふ。一。人。徳。聖。佛。幸。た。を。り。乃。願。宮。は。あ。や。く。ね。ん。ソ。ひ。つ。
へ。う。い。と。え。う。う。一。は。き。一。き。よ。に。そ。の。ゆ。き。ふ。ぎ。ま。る。ふ。在。田。郡。
も。須。依。社。の。社。主。お。守。岩。橋。時。侍。ハ。お。の。づ。ま。う。へ。ふ。お。ろ。と。
佛。や。一。は。ふ。も。ま。う。で。か。う。う。ご。う。ひ。て。ま。ご。う。あ。う。一。一。花。や。
ご。り。う。う。う。う。その。ゆ。き。う。上。の。う。ご。を。お。あ。く。ハ。え。う。り。一。お。り。
此。ま。ご。の。佛。社。を。千。田。と。い。ふ。里。は。山。陰。一。う。せ。給。ひ。て。徳。
野。ま。ご。り。ハ。西。方。へ。と。う。と。て。在。田。川。乃。川。ま。ひ。ま。ご。う。り。ゆ。く

取し。系。系。山。を。徳。也。也。ま。ご。の。板。お。て。こ。道。も。在。田。郡。一。山。乃。藤。藤
一。系。我。の。里。又。系。我。王。子。社。と。い。や。も。ま。ご。ま。ご。在。田。川。の。う。り。よ
ア。此。山。み。ま。ご。う。う。ふ。ち。う。う。え。う。り。一。か。ど。か。一。と。ま。ご。ハ。え。お
せ。ご。り。一。は。こ。の。い。と。ご。里。の。村。ま。ご。一。申。山。お。ふ。ご。一。二。人。お。の。ご。
弟。お。ふ。ち。り。ふ。う。は。急。う。う。が。あ。り。ま。ま。し。ま。ご。め。て。い。ひ。ま。ご。び
人。ま。ご。ご。か。の。う。り。あ。る。ま。ご。な。ふ。く。と。て。後。ア。一。り。一。

殊。肖。心

肖セの心。書紀の孝徳天皇は。是。小。畿。内。の。堺。を。定。り。う。う。
う。う。ふ。南。自。紀。伊。兄。山。以。来。一。ま。ご。て。兄。此。云。制。一。訓。注。と
う。う。と。て。ま。ご。お。ハ。一。の。ま。ご。持。統。天皇。は。佛。代。の。う。り。あ。は。れ。て

のこりたるべし。此川みまもといふ着松山のこりより出て北隅田
庄を流れてまの川におつし。紀の宮ハ新泉よりまの川の
名を記ししころ也。雄山ふきて南のぬりとゆる山に村ふちり。神
中如ふ雄山の宮とあり。白鳥宮といふも此宮也といふべし。
名を記しし。紀之井とあるは山也。飽等宮も海士郡野田浦乃南也
方小田倉崎といふ所あり。是こと里人のいひ傳へしとぞ。吹上濱
ハ若山乃西南也。野田浦の北也。雄水門ハ今若山の内小湊と
いふ所也。小野所といふもて。蛭子社あり。そこ小雄之芝といふ
あり。五津令其豊まゝ。跡といふり。小野所といふも。中
雄の所といふべし。吹上社といふも。並べると

了。或況るハ吹上社も。野田村の矢のまといふり。雑賀浦ハ
海士郡也。雑賀也といふ。名を記しし。中野乃西の方也。
雑賀浦といふも。名を記しし。雑賀浦も。浦の北也。
ハ同郡。濱中ハ椒村の八町。ぐり海中。地の端といふも。東西に
町あり。南ハ八町。むりりの端也。まの川の三町。ぐり西也。又端もて。
仲の端といふ。東端五町也。南ハ五町。ぐりあり。此二つの端を。浦
のまの川。端といふ。小野所也。在田郡。山保田也。小野所。推手村といふ
あり。こまの村也。伊勢郡。乃堺也。山保田の北也。白崎ハ。日也。
郡。衣奈。衣奈浦の東南也。方小。衣奈。八幡といふあり。そこの社の跡
記す。白崎といふも。三穂の岩屋ハ。同郡。三尾村の北也。



むくり東浦の海べり。其の北に中石の親善の像あり。然れども
のち日高川塩釜浦のつくりより北の海べり。一里むくりの北に松
系をて。和田松系といふ。北の西の陸に。野崎阿胡根浦ハ
同郡塩釜浦の浦。野崎里あり。その海べりをわらぬの浦といひて
貝は多くとりて集まる所也。切目山ハ同郡熊野その海べり。切
目坂切目浦切目村あり。山を村より一里ぐり東に。村の北に切目
五子社あり。蟹代ハ同郡切目川ありて。決ふ蟹代
あり。西に代東に代として村あり。蟹代五子社海べりあり。五里濱ハ
代代の浦の北より南にまであり。一里半むくり北より南に
いふむくり。元弘元年七月三日大地震あり。きの西に里の濱

ちよ町がねど。むくり陸とちよ町より。ちよ記ふとち
をり。三名がハ。代代の浦也。三名が村みきべ浦あり。その十町
むくり海中。小島あり。とよ麻嶋也。とよ三名がの浦。小島浦
といふ。有て。那保也。とよまでハ日高川。そのとより。ちよとん。牛
婁也。磯間浦ハ。田舎の王宿村の浦。神子濱。つぎ小あり。神
嶋也。その一里ぐり海中。ちよあり。かしまとといひ。白良濱也。
湯崎。鈴山と。瀬戸とのちよ。小島あり。里人ハ白濱といひ。け濱
のま砂。まきく。見せ。をた。と。神。新。ま。より。二町。ぐり
東浦。西浦。小島。社の説也。天照大神と。倉下と。二社と。祭
といひ。石の階を。六町ぐりのちよ。上小堂あり。地蔵の像を

つりむくハハ所伊勢ノ紀の山の場なり一と里入のなり
錦の浦も長崎の長崎村の一里づりあり地むくハ志摩の
おろしき上俣磯の浦なりとあり皆むらの歌にそとく
けきのふもゆふに名どてりども多くしも万葉集ふもけふ
おろくしるを昔の人まいつきの歌なりつりといふえあ
ぬ所はまうの河此ふもハからる歌なりみ人よとあはるあ
ど又さぬもあはるあはるあはるあはるあはるあはるあ
その人くを写しあまつの中ふもあはるあはるあはるあはるあ
とあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあ
えりいぞとあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあ

やうふぢぢなりぬるねむ式りのところ神社ごとくははるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあ
へむろあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあ

周武王死すとき成王十三歳

かろむれ周の武王より九十三ふしそみようれり一階まの
成王いづが十三なりとあるをり然れども成王ハ武王が八十
一の時乃ふぢぢ有きといふ人まはるあはるあはるあはるあ
備あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあ
とハあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあ
うませうハあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあ

てある志は、控現とすはとを、此のあた小篠、伊野が、
らり、かふかの里人、一をて、ら、く、し、ま、つ、し、と、て、し、お
らせ、る、り、系、系、系、之、の、を、好、る、な、れ、志、都、の、石、室、の、也、形、し、む、ら
と、思、ど、な、う、か、思、ふ、系、系、系、の、い、と、ら、し、む、う、は、あ、れ、ま、め、一、生
石、村、主、ま、人、と、り、あ、人、り、る、ん、あ、れ、ツキ人、る、い、あ、て、く、は、あ、ま、そ、ゆ
ま、て、よ、あ、し、む、と、ら、び、と、し、ら、う、づ、う、さ、ふ、と、か、の、海、に、下人、乃、ゆ
く、と、ま、れ、あ、る、あ、れ、あ、さ、び、り、ら、あ、ま、さ、あ、く、さ、ら、あ、れ、む、い、の、人
乃、あ、り、て、よ、む、び、き、の、も、ら、お、が、い、お、ら、ど、ど、後、の、ま、れ、人、の、は、あ、り、て、い
ぬ、び、ま、さ、ら、あ、し、む、と、あ、が、い、あ、れ、あ、ら、び、あ、ま、さ、ら、う、ら、あ、ら、し、む、ら
わ、ら、ぬ、さ、ら、あ、し、む、は、ま、ま、え、ら、ら、

對馬の式社

和多郡美神社ハ三根郷木坂村小在、神階從四位上、今ハ八幡本宮
とす、嶋大國魂神社も、豊崎郷豊村小在、神階正五位下、今ハ嶋
首社カミとす、能理乃神社ハ同々西泊村小在、神階從五位下、
天諸羽命神社ハ佐賀村小在、神階從五位上、天神多文頭
多麻神社ハ同郷湊村小在、神階從五位上、又玉基社も、宇努刀
神社ハ右ハ三根、佐賀村小在、今ハ國府八幡宮の境内小在、祇園社
とす、神階從五位上、小菟宿祢命神社も、三根、三根村小在、神階
從五位上、八座王後魂とす、那須加美乃金子神社ハ伊奈郷三根、
々の場小在、南ハ三根、志多野村、北ハ伊奈、小鹿村、今ハ那祖師大明

神と申し、津階は五位上。伊奈之比神社ハ伊奈々伊奈村あり津階
坂五位上。行相神社ハ佐護伊奈二郷の堺あり、津階は五位上。
和都美御子神社ハ仁位々仁位村あり、津階正五位上。今ハ天神と
申し、胡祿神社ハ伊奈々琴村あり、津階は四位下。今ハ琴崎社
と申し、胡祿子神社ハ同々同村あり、津階は四位下。今ハ郷崎
社と申し、嶋大國魂子神社ハ佐護々佐須奈村あり、津階正
五位下。大嶋神社ハ仁位郷仁位村あり、津階は五位下。今ハ和都美
神社と申し、波良波神社ハ同々同村あり、津階は五位下。今ハ軍
殿と申し、上件十六社ハ上縣郡ハ物々三根佐護伊奈ちりど
の郷ミチ和名抄あり、下縣郡あり、又仁位々ハ和名抄ありハミ、ざれ

いも、是も右ハ上縣郡あり、波々下縣郡あり、高御魂
神社ハ豆殿郷豆殿村あり、津階は四位上。銀山上神社ハ佐須
々久根村あり、津階は五位下。今ハ五所大明神と申し、雷命神
社ハ同々阿連村あり、津階は五位下。今ハ八龍殿と申し、和都都
美神社ハ國府あり、津階正四位上。今ハ八幡宮と申し、多久頭
禊神社ハ豆殿々豆殿村あり、津階は四位上。倭記宮と申し、
太祝詞神社ハ與良々加志村あり、津階は四位上。今ハ加志大津
と申し、阿麻呂留神社ハ同々小船越村あり、津階は五位下。今ハ
照日權現と申し、住吉神社ハ同々鶏知村あり、津階は四位上。
和都都美神社ハ住吉と同社ハ津階は五位上。平神社ハ國府ハ

うは嶋あどはちるふ海中にを形とるるそしめをせむかてりて西乃
みごとさるだちりし言どもききしつりけりきむゆゑふた
のさぬれつりりるぬるやけりきむとかくはせむしつりりる
あどあどあきる。

にけりさぬしつあまむ

今昔のまふ人おわくさぬしつりるを聞はれりるをへし保氏の
物候尋ふれをあぶえはまはあゆめをせまづりくまて
くらりりるべくなむけりるしつりりるを聞はれりるをへし保氏の

梅とさぶしつあま

昔ヨシカ信りしつりりるへし梅はさぶ梅をけりしつりりるの中あ何とてねはつ

とけりりしつりりるあま保盛衰記りハ昔あちたコチあま
とつりりるまふあひりるバあ梅つりりる飛行りるバ何ドはねり
あつりりるまふ保乃保言はれにりるをねりりる一帯の中
あ枯れりる保保順がまふ梅とさぶ梅はうれぬまふ系や保くぞね
む保のちかひまふとさむきりりるしつりりる此あをけりりるへし
りやちりるむささどけ順がしつりりるあま本未かきあむしつりりる
あまきりりる。

能とつり楽

西宮記相撲條也。相撲了能優一番とけり。能優ハ猿
樂也とびりりるしつりりる。近きまふ能とつりりる名ハとさむなるべし。此

歌とてするハ當代の天皇は伊弉諾名派をきく事ありとわたりおぼしき
を此八十美神ハいつりぬるよりわたりしむいまだ思ひえぞとてやう
のふぐひも神の正名の文字はむい何と後のは書ぞとハおぼく
書記のよよれをよきく此稱を世にけりしより今このよ
いさやせむハ百美神とのといひあるハ先づし。

人名を文字書ふりや

人の名を世の文字は書きて唯あへる事ありぬ。ゆゑハ時平大臣多
田備仲原松光安倍晴明などおぼしきなりや。後ハ後成つ
定家つ。家隆つ。鴨長ぬなど。むろりともどことあのといひある人
琵琶ありしのお家物候をかくるゆきくあつてふふささことわらぬ。

ゆらぐは人の名どもおぼくハもどことあつておぼしきハ音か
ゆよの中かこわりたりしとてわらう。

後垣姫が事

されお新乃下お新をいふ。むかきのおりねが像といふおのり。肥
後おんりししいお修りなるハかの西飽田歌白川のつりり。九品山蓮
基寺といふおのの姫の墓といふおきて古き石塔もてり。まごを
ふもどハなり。うね像といふ物ハ河郡お岩殿山といふお。観音とて
あつて岩をたわふといふおのり。ほろおとらといひ。此おハ
うね姫乃像く信どて。つておまうて。そのつこといひつて。その
あつらふ山下をそまうづ。いびおふ。よとら。あつこといふおと

ついで又々して加乃佛ふもむき一もそそ井もつるじつれどか
のりり物ううといふ像もまそふいつんさる物るべいと候とき。

ついでやま

今、傍に、ついでやまは、うそといふて、ついで、核を、桑の、津、樂、より、
よも、心の人、乃、も、う、う、と、さ、る、弓、波、津、乃、ま、へ、か、り、の、し、て、す、る、こ、も、花
物、花、の、を、あ、こ、う、の、中、に、と、ご、と、つ、の、あ、つ、を、ま、し、よ、も、や、る
乃、人、上、下、や、ま、の、ま、さ、ふ、う、。

ついで

あや、つ、と、つ、の、河、核、を、桑、新、あ、つ、風、を、や、ま、の、ま、た、善、業、は、と、も、と
と、ば、あ、や、る、と、や、ま、れ、人、乃、う、う、う、。

目録

目録乃、ついで、ま、を、物、津、を、川、花、の、を、あ、物、の、う、を、か、ま、さ、る、ぬ、と、柳
管、あ、い、と、そ、ま、わ、り、と、つ、い、。

硯が光

曰、書、石、の、を、は、に、清、ま、へ、乃、は、ま、が、て、か、を、と、つ、の、い、傍、よ、い、あ、あ、入、じ、
と、ご、ま、と

傍、よ、い、あ、あ、と、ご、り、ま、と、む、と、い、つ、の、ま、が、と、つ、の、あ、せ、ね、日、物、が、う、浦、と

乃、別、の、を、う、い、ん、と、り、。

ついでそ風

曰、ト、物、津、木、跡、を、は、を、あ、あ、ま、あ、う、と、う、う、を、そ、し、と、う、う、。

